

中国河南省万河村緑之風希望小学校竣工から23年

許伝利 元校長先生からメールが届く

尊敬する佐々木委員長へ

お元気でいらっしゃいますでしょうか？今日は万河村緑の風希望小学校設立23周年の記念日です。私は万河村の村民の皆様、及び緑の風希望小学校の生徒の皆を代表して感謝の意を申し上げます。特に申し上げたいと思うのは、23年前、角岸幸三先生が組合員三十人を率いて万河村を訪れ、希望小学校を建立する時の事です。感謝したい方は沢山ありますが、特に以下の方に感謝したいと思います。佐藤公雄先生、宮川寿先生、坂本浩先生及び盛岡地本の皆様、平和を愛する日本の友人の皆様、そして万河村小学校に多大な支援と援助を惜しまなかった皆様に心より感謝の気持ちを申し上げます。

23年の間、万河村の皆様と緑の風希望小学校の生徒及び教師の皆様は貴方達の支援と援助のことを一刻も忘れたことはありません。緑の風希望小学校の記念日にあたる今日も、皆様よりお祝いのメールをいただき、ありがとうございます。先月、私は小学校に一度寄りましたが、学校の庭を散策しながら皆様との交流の様々な忘れられないエピソードがなつかしい映画のシーンみたいに目の前で蘇りました。

23年の間、我々の共の努力の下で、日中友好交流は心に残る多大な成果を成し遂げました。もちろん、此の成果は何代もの委員長の方々の努力及び盛岡地本の皆様の惜しまない支援と援助の下には他ならないものだと思います。今日のメールに載せられない感謝の気持ち、言葉で表現できない思いもいっぱいですが、もう一度此の場を借りて感謝致します。佐藤先生、宮川先生、坂本先生によろしくお伝えくださいますよう、盛岡地本の皆様にお話してください。角岸先生の奥様にもよろしくお伝えください。皆様のご健康と順調、及び万事如意をお祈り申し上げます。

最後に、佐々木委員長のご健康をお祈りいたします。そして、何時かお時間を作ってまた万河村にいらしてください。盛岡の皆様を大歓迎いたします。中国の諺では「水を飲む時、井戸を掘った人を忘れてはならぬ」との言葉があります。万河村の皆様は遥々千里の海を越え、中国に来て井戸を掘って下さった皆様に永遠に感謝致します。

2022年11月22日 中国河南省万河村緑の風希望小学校元校長：許伝利

なぜ、JR東労組が中国に小学校を？ ～平和の架け橋運動～

JR東労組は戦争の悲劇と歴史の真実を学びながら、旧日本軍が中国に侵略し、3,500万人もの罪の無い方々の命を奪った事実を知りました。また、中国では労働者間の貧富の格差が大きく、貧しい農村では子供たちが劣悪な環境で授業を受けている事実も知りました。そこでJR東労組は過去の日本の過ちを認め、二度と同じ過ちを繰り返さないことを誓い、未来の日中友好の架け橋を創るために1998年に定期大会で「平和の架け橋運動」に取り組むことを決定し、組合員のカンパで中国に小学校を建設してきました。(JR東労組が中国に建設した小学校は全部で17校。内、盛岡地本は河南省万河村に1校建設。なお、盛岡地本が建設した小学校は2021年に統合され、生徒は槐店完全小学校へ移っている。)



写真は2017年に訪中した際の交流の様子